



鶴の便り 鶴の便り

報資料館の里鶴夕

平成27年3月20日

第51号

発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

平成二十六年年度

事業終了!

夕鶴の里の事業には、多くの方々のご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

平成二十六年年度の主な事業並びに関連事業の開催日、参加人数は次のとおりでした。

◇蚕の飼育事業(まゆの里事業)

6月10日(火)～30日(月)21日間
第十五回「語り部養成講座」

6月～7月(8回開催)

(小学生10名、大人8名受講)
第十二回民話の「語り駅伝」

7月6日(日) 71名参加

◇昔のあそび体験

5月・7月・9月・11月・1月

合計26名参加

◇社会人力育成山形講座

5月～7月の週末4日間

(山形大学・東北公益文科大学・

東北文教大学の学生5名)
◇染め織り体験学習事業

(まゆの里事業)

7月～10月(5回) 30名受講

◇紙芝居づくり講習会

(山形ふるさと塾形成事業)

9月～11月(3回) 17名受講

◇第十五回「民話まつり」

10月5日(日)

ゲスト：菅原正朝氏(鶴岡市)

80名参加

◇第十六回「子どもまつり」

10月12日(日) 88名参加

(内容：Laハラトミ太鼓の公演・

オリジナルうちわ作り)

◇だんご下げ (友の会事業)

2月15日(日) 30名参加

◇『南陽のシルクの歴史を訪ねて』

製作事業 (まゆの里事業)

10月1日～3月31日

◇第五回

「おきたま語りフェスティバル」

6月22日(日)

(会場：白鷹町文化交流センターあゆくむ)

150名参加

◇ふるさと講座

・第一回 6月28日(土)

(会場)夕鶴の里
大友義助氏 17名参加

・第二回 8月3日(土)

(会場)夕鶴の里
佐野賢治氏 29名参加

・第三回 9月20日(土)

(会場)結城豊太郎記念館
秋田 博氏 28名参加

・第四回 10月18日(土)

(会場)結城豊太郎記念館
多勢久美子氏 37名参加

◇「あゝ野麦峠」上映会&シルク

展示会二〇一四 in なんよう

会場：交流プラザ蔵楽

(上映前語り2名出演)

民話会ゆうづる 菅野敏子氏

〃 白岩けい子氏

◇第三回南陽こども芸術祭への

参加

11月16日(日)

会場：南陽市民会館

「夕鶴っ子の会」5名出演

◇置賜こども芸術祭二〇一四への

参加

11月24日(月・祝)

会場：川西町フレンドリープラザ

「夕鶴っ子の会」5名出演

平成二十七年年度も、より良

い事業を展開していきますの

で、皆様のご支援、ご協力を

お願いいたします。

「小正月の行事」

「だんご下げ」

だんご下げは、小正月に餅をついてだんごを作り、「みず木」にさし、「ふなせんべい」をつり下げて飾り、豊作を祈る行事です。

夕鶴の里でも、二月十五日(日)、友の会主催(渡邊記美子会長)で「だんご下げ」を行いました。

始めに、渡邊会長の開会の挨拶があり、だんご下げの意味などを聞き、早速、参加した子ども達は、つきたてのお餅を伸ばし、小さく切り、だんごをつくりました。その後、鯛の形のふなせんべいや、紙で作った小判やひょうたんなどを飾りつけ、あつという間に華やかなだんごの木になりました。

最後に納豆餅が振舞われ、子どもたちは、「初めてやってすごく楽しかった!」「良い思い出になった」などと大喜びでした。



千羽鶴が新しくなりました！！

この度、民話会ゆうづるの皆さんのご協力により、「千羽鶴」が新しくなりました。鶴を一羽一羽丁寧に折りあげ、糸でつないだ鶴は、語り部の館の階段のところに下げられ、だんごの木と共に、より一層華やかになりました。



漆山地区 地名伝説集

〈山の神様〉

四ツ谷から須刈田へ行く途中に、古い昔の旧道があんべ。前はこの道だけだったなよ。その古い道の中頃に、山の神様が祀られてあんのよ。

この神様、いつの頃よりあったのかは分かんねげんど、石の鳥居と石造りの小さな祠があって、前方には、石畳が敷かれていて、参道のようになっているのよ。

言い伝えによると、この神様は女子の神様で、あんまりええ女子でほんねがったなど。そのうえ、とつてもりんきもち(嫉妬深い)でえやつたなど。それで、おんなのひとはお参りしても悪がったなど。特に、若い女子と二人で山へ行ったときなどは、神様あごっしやくので(怒る)決して二人で一緒に参りさんにえなだ。

昔は、山仕事や草刈などに行ぐ時も、この前は馬に乗ったまま通つては罰が当たると、馬を降りて通らなければならなかったほど、偉い神様でえやつたなど。

この神様のお祭りは、旧暦の二月十七日で、農家の若い衆や、山仕事をしている人は、十六の夜にヌサという物を作つてお神木の大きい杉の木に下げて、お参りして来たもんだ。

ヌサっていうのはな、しめかざりのような物で、麻の糸、干し魚、黒い炭などを付けて作つたもんだ。

そのヌサを下げた杉の木は、根っこがゴラ(洞)になつていて、五、六人も入れるほど大きい杉の木だつたんだけど。ずーと前に焚火の不始末で、燃えてすまうて、今は切り株だけ残つていんなよ。

この山の神は春になつても、里さ降りなかつたようで、田の作神様になつた話はないようだなつす。

毎月の一日には神様あ、自分

の受け持ちの山の木を数えるそうで、その日には山さ行くど間違わちえ切られるときあんのので山さ入つて悪かつたなど。そして、向かい側の北谷と言う山には神様のお庭松といわれる、ホーキ松がいつぱいあつてな、その松を切ると罰が当たると、誰も切らねがつたんだけど。

いつのまにか無くなつて、一本だけの残つているなよ。また、山へ行って鉈とか無くしたときなどは、この神様さ行つて、ズボンを下げて男の大事などところを見せながら参りすると、すぐ見つかつたそうだ。

※家小屋話に語られていることによれば、奉納するヌサとは、男性の物をあらわしたもので、麻糸は毛深さを、炭は黒さを、干し魚は生臭さを表したものと云われています。干し魚のオコゼと言う魚は非常に変わつていて、神様は、自分より醜い姿のものがこの世の中には、居たんだと安心するのだそうです。

家で祭っているなぜか勝手口の軒下にあつて、神棚は無く、お供えの餅も男の人だけが手をかけ、女は手を触れなかつた、よほど嫉妬深い神様ではなかつたんだらうか。

地名伝説担当編集
おりはたの里づくり推進会議



夕鶴の里(貸館)

使用についてのお願い

- ◇使用の際は事前に夕鶴の里に使用申請書を提出してください。
- (鍵の施錠の仕方をしっかりと確認ください)
- ◇電気・冷暖房は必ず消してください。
- ※最近、電気、冷暖房の消し忘れが非常に増えております。
ご注意ください！！
- ◇調理室の水道を利用した際は、必ず水抜きを行ってください。(凍結防止)
- ◇使用時に出たゴミは、各自持ち帰って下さい。
- ◇使用後は必ず日誌に記入してください。
- ◇使用後の施錠はしっかりと行ってください。

